

当院で 2013 年 1 月～2023 年 4 月に  
顔面神経麻痺に対してアブミ骨筋反射検査を受けた  
患者さんの診療情報を用いた  
臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者

所属 耳鼻咽喉科学教室

職名 准教授

氏名 増田正次

連絡先電話番号 0422-47-5511

このたび当院では、頭記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、増田正次までご連絡をお願いします。

### 1 対象となる方

西暦 2013 年 1 月より 2023 年 4 月までの間に、ウィルスによると推定される顔面神経麻痺（ベル麻痺、ハント症候群、水疱を伴わない帯状疱疹）のため当科を受診し、各種聴覚機能検査、味覚検査、顔面神経の筋電図検査、血液検査、尿検査、画像検査、薬剤投与、手術治療を受けた方です。本研究への協力を望まれない方は除外します。

### 2 研究課題名

アブミ骨筋反射検査陽性のウィルス性顔面神経麻痺（Bell 麻痺、Hunt 症候群、zoster sine herpette)症例の予後にかかわる因子の検討

### 3 研究実施機関

杏林大学医学部耳鼻咽喉科学教室、杏林大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸科

### 4 本研究の意義、目的、方法

顔面神経麻痺患者さんの中で、治りやすい方と治りにくい方を、なるべく体に負担のない方法で、なるべく発症早期に判別するのに有用な因子を見つけることを目的としています。顔面神経麻痺の治療は経口、点滴、点眼による薬剤の投与（保存的治療といいます）から開始します。しかし、麻

痺の治りが悪そうな患者さんには手術など外科的治療をお勧めすることもあります。麻痺の治りが良さそうか、悪そうか（予後といいます）判断の材料となる簡易な方法の例としてアブミ骨筋反射（大きな音を聞くと鼓膜の奥のアブミ骨筋という筋肉が顔面神経の働きで収縮する反射）検査があります。通常、アブミ骨筋反射を確認することができた患者さんでは麻痺の治りが良いとされています。ところが、中にはアブミ骨筋反射があったにもかかわらず治りの悪い患者さんもいます。この研究により、アブミ骨筋反射があったとしても、積極的に発症早期から外科的治療をお勧めしたほうが良いと判断できる因子が判明する可能性があります。そのような因子を、患者さんの診療録（カルテ）に記載されている内容の分析から明らかにする予定です。

## 5 協力をお願いする内容

診療録に記録されている、各種聴覚機能検査、味覚検査、顔面神経の筋電図検査、血液検査、尿検査、画像検査、治療の結果を分析対象とすること。

## 6 本研究の実施期間

研究許可日～2026年3月31日（予定）

## 7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、上記の個人情報もすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。医学部倫理委員会に承認された破棄時点で完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

## 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

氏名：増田正次

所属：杏林大学医学部耳鼻咽喉科学教室

連絡先：0422-47-5511

F A X：0422-42-5968

対応する時間帯：平日午前9時から午後5時まで。ただし当病院の休診日を除く。また、診療中、手術中などの理由で対応ができない場合には、後日のお問い合わせをお願いさせていただきます。

以上